

乳幼児期からの長期治療で夜間掻破が減り限局症状となった小児アトピーの経過 (11 歳 女児)

症例 ID：001-11-MN2 | 記録日：2015 年 7 月 19 日

1. 診断・治療前経過

生後 3 か月頃から耳介部の発赤や浸出液があり、乳幼児期には胸、首、背中、頬、目周囲などへ症状が広がりました。3 歳で松本医院を受診し、漢方入浴、外用処置、煎じ薬を開始しました。以後、風邪や蕁麻疹の波を伴いながら長期治療を続けました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	乳幼児期に軟膏や内服薬を使用しました。ステロイド使用は一部勧められましたが、詳細は不明です。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	乳幼児期から使用歴があります。
中止時期	不明です。
来院前／後	来院前に薬剤使用歴があります。来院後のステロイド使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後 3 か月	発症	耳介部に発赤、浸出液、少量の出血がありました。
生後 10～11 か月	拡大	首、背中、胸などのかゆみや湿疹、発赤が続きました。
1～2 歳	反復経過	頬、目周囲、腋、脚などへ広がり、風邪や気管支炎も繰り返しました。
3 歳	治療開始	漢方入浴、外用処置、煎じ薬を開始しました。
治療初期	症状の強い時期	顔の浸出と強いかゆみがあり、1 時間眠ることも難しい状態でした。
5～7 歳	経過中	首や目周囲の乾燥、夜間のかゆみ、蕁麻疹を繰り返しました。
8～10 歳	変化	背中はきれいになり、痒みは時々残る程度となりました。
11 歳	記録時点	首と肘窩の限局的な症状となり、夜中は時々掻く程度でした。

4. ピーク時期

ピークは、3 歳で治療を開始した頃に、顔から浸出液が出て、昼夜問わずかゆみが強く、1 時間眠ることも難しかった時期です。

5. 困りごと

- ・漢方薬や漢方風呂への拒否があり、家族の処置負担が大きい時期がありました。
- ・夜間のかゆみで親子とも睡眠が妨げられました。
- ・風邪や蕁麻疹を繰り返しながら長期治療を続けました。

6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。

年齢	非特異 IgE
1 歳	33 IU/mL
2 歳	23 IU/mL
3 歳	223 IU/mL
4 歳	148 IU/mL
6 歳	55 IU/mL
7 歳	55 IU/mL
8 歳	400 IU/mL

7. 経過のまとめ

11 歳時点では、首と肘窩に限局した症状となり、夜中は時々掻く程度まで落ち着いていました。
背中ではきれいな肌となり、紫雲膏の塗布などを自分で行えるようになっていました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。